

第 7 回算数・数学ワーキンググループについて

2016 年 5 月 13 日に中央教育審議会教育課程部会の算数・数学ワーキンググループが開催された。

13:00 から 15:00 まで文部科学省 3 階 1 特別会議室で行われた。

第 6 回に引き続き一般傍聴者は 40 名程度であった。

今回の議題は以下の通りである。

1. 科目構成の見直しについて
2. 必要な支援・条件整備等について
3. 算数・数学ワーキンググループにおけるとりまとめイメージについて
4. その他

まず事務局から議題 1 について資料の説明があった。

高等学校の科目構成は、数学活用が廃止され、現在数学 III に入っている「複素平面」や追加される統計分野である「データの活用（仮）」を扱う数学 C が新設される予定である。単位数や選択方法などについて、詳細は未定とのことであるが、「理数探究（仮）」を含め全体として現行の単位数と同等かやや増える程度になる予定だとのことである。

現場では数学 III が 5 単位なのは重いので分けてほしいとか数学 A・B の選択方式はやめてほしいとの意見があるそうだ。数学活用については、残してほしいという意見や、その中の人間との関わりや社会生活における数理的考察は重要な要素であるので、必修科目で取り扱ってほしいとの意見があった。

13:30 頃から議題 2 について資料の説明があった。

資料 3 は議題 2 に関わるこれまでのワーキンググループでの意見がまとめられ、資料 4 では ICT 活用の実践例が示された。

これについて、ICT の活用は有用ではあるが、グラフを表示したことで学習した気になり、式の理解が深まらない可能性を危惧する委員がいた。

ICT 活用のためには教員の意識改革が必要であるので、良い面と悪い面や事例を含めた適切な情報の提供をしてほしいとの意見もあった。ICT の活用方法として、授業の効率を上げて学びの時間を確保するためのものと、学びのために ICT を活用するものがあり、事柄をインプットする事例を挙げすぎない方がよいとの指摘もあった。統計の分野では手計算はナンセンスであり、本来どういうグラフがいいのかを考えることが重要だから、ICT 活用で活動が広がると期待する委員もあった。

14:05 頃より議題 3 について資料の説明があった。

資料 5 として「算数・数学ワーキンググループにおけるとりまとめのイメージ（案）」が示された。本日の議論の内容を盛り込み、次回、最終的にとりまとめたいとのことであった。その後、総則・評価特別部会や各校種別の部会に提出され、答申としてまとめられる予定となっているようだ。

最後に 14:40 頃より参考資料についての説明があった。

これらは第 16 回教育課程企画特別部会において提出された資料についての報告であった。参考資料 4 は小学校の総則イメージ（案）、参考資料 3 は高等学校の総則イメージ（案）、参考資料 5 は小学校におけるプログラミング教育に関する有識者会議について、参考資料 6 は文部科学大臣の教育改革に関するメッセージである。

次回は 5 月 24 日（火）17 時より開催の予定である。